

山梨県笛吹市

# 柵田遺跡

—春日居びゆーほてる増築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2008

春日居びゆーほてる  
笛吹市教育委員会

埋蔵文化財発掘調査支援協同組合

## 例　　言

1. 本書は、山梨県笛吹市春日居町鎮目字小島田に所在する<sup>（跡）</sup>鶴田遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は宿泊施設増築に伴う事前調査として、事業者の春日居びゅーほてるより埋蔵文化財発掘調査支援協同組合(以下「埋文協」と表記)が委託を受けて、笛吹市教育委員会指導のもと平成19年度に実施した。
3. 本報告書の執筆は、埋文協 調査研究員 白崎智隆及び岩崎 祥が行い、編集は白崎智隆が行った。
4. 発掘作業から報告書作成に至るまでの過程で各方面から賜った御協力については、本文中の第3章第3節に記載した。
5. 発掘調査の成果品である図面・写真等の諸記録及び出土遺物は、笛吹市教育委員会が保管している。

例 言  
目 次

## 本文目次

第1章 総説	1	第3章 調査方法	3
第1節 調査の概要	1	第1節 発掘作業	3
(1) 発掘調査に至る経緯	1	第2節 整理作業	5
(2) 本調査の経過	1	第3節 報告書作成作業	5
(3) 整理作業の経過	1	第4章 遺構と遺物	6
第2節 調査体制	1	第1節 概要	6
第2章 遺跡の環境	2	第2節 坪穴住居跡	6
第1節 地理的環境	2	第3節 土坑	6
第2節 歴史的環境	2	第5章 まとめ	10

## 挿図目次

図1 遺跡の位置と周辺遺跡	3	図5 1号坪穴住居跡出土遺物	8
図2 本調査範囲と周辺地形	3	図6 2号坪穴住居跡出土遺物	9
図3 遺構配置図	5	図7 1号土坑～4号土坑	9
図4 1号坪穴住居跡及び2号坪穴住居跡	7		

## 表 目 次

表1 出土遺物観察表	11～12
------------	-------

## 図版目次

図版1 全景、作業風景、SI01遺物出土状況、SI01完掘、SI01竪	
図版2 SI01竪左袖内遺物出土状況、SI02遺物出土状況、SI02完掘、S102竪、SK01、SK02、SK03・SK04	
図版3 SI01出土遺物	
図版4 SI02出土遺物	

## 第1章 総 説

### 第1節 調査の概要

#### (1) 調査に至る経緯

平成18年7月26日、みずほ信不動産販売株式会社を通じて、春日居びゅーはてる（以下「事業者」と表記）からの宿泊施設増築計画に伴う「土木工事等予定地における埋蔵文化財包蔵地の有無及びその取り扱いについて」の照会が笛吹市教育委員会（以下「市教委」と表記）にあった。市教委は、照会地が周知の埋蔵文化財包蔵地であり、増築計画によっては試掘確認調査を実施する必要がある旨の回答を行った。この回答を元に、平成19年2月20日付けで文化財保護法第93条第1項による届出が提出され、事業者と市教委で遺跡の取り扱いについて協議した結果、平成19年3月19・20日に市教委が事業地内の試掘確認調査を実施する運びとなり、この調査によって堅穴住居跡2軒の存在が確認された。この調査結果をうけて、平成19年3月20日に事業者と市教委との間で宿泊施設増築計画に関する協議を再度行い、遺構を検出した調査区東側（100m<sup>2</sup>）の発掘調査を実施して記録保存を行うこととなった。

平成19年3月23日、事業者より埋文協山梨支部の昭和測量株式会社を通じて発掘調査に関する見積依頼があった。その後、平成19年3月27日付けで市教委、事業者及び埋文協との間で埋蔵文化財発掘調査に関する三者協定を、事業者と埋文協の間で笛吹市門田遺跡に係わる埋蔵文化財発掘調査業務の委託契約を締結し、平成19年3月28日より発掘調査を開始した。

#### (2) 発掘調査の経過

発掘調査は100m<sup>2</sup>を対象に行った。発掘作業の工程は次の通り。

【機材搬入（3/28）・表土除去（3/28）・遺構検出（3/28）・遺構精査（3/28～4/4）・写真撮影（4/3～4/5）・遺構図面作成（3/30～4/5）】

4月5日に機材の搬出・撤収作業を行い、翌6日に市教委による発掘調査終了の確認が行われた。

#### (3) 整理作業の経過

整理作業は、埋文協西関東整理事務所（山梨支部：昭和測量株式会社岐東支店）で実施した。

出土遺物量は、整理箱（内寸：545×336×150mm）8箱であった。整理作業の工程は次の通り。

【遺物の移送（4/5）・水洗（4/9～4/15）・注記（4/16～4/19）・接合・復元（11/20～12/20）・実測（12/25～1/22）・トレイス（1/21～1/31）・写真撮影（2/1）】

以上の作業と並行して、写真整理・台帳清書を行い、山梨支部の図面整理作業の完了を受けて、報告書編集作業を行い、印刷所に入稿した。

### 第2節 調査体制

調査は笛吹市教育委員会が指導し、埋文協が実施した。西関東整理事務所（山梨支部：昭和測量株式会社岐東支店）で雇用する作業補助員のうち発掘作業に6名、整理作業に4名が従事した。

以下に、調査担当者及び関係者名を掲げる。

調査担当者：岩崎祥（調査主任：埋文協調査研究員），白崎智隆（整理作業：埋文協調査研究員）

測量担当者：相川喜美雄（昭和測量），早川徹（昭和測量）

補助員：小幡浩子，高田和子，立花重光，柄原好美，内藤章江，中山求成（以上発掘作業），小幡浩子，高田和子，立花重光，柄原好美（以上整理作業）

## 第2章 遺跡の環境

### 第1節 地理的環境

門田遺跡は笛吹川扇状地の扇端部、平等川と笛吹川の中間にあたる標高 278mの自然堤防上に立地する。調査地点は遺跡範囲の南端部で、JR中央本線石和温泉駅から北東に 1.2km、中央自動車道・宮御坂ICから北西に約 4 km の位置に所在する。周辺は從来、水田や桑畠として利用されていたが、現在は果樹園と宅地が広がる。調査前の状況は駐車場であった。

### 第2節 歴史的環境

門田遺跡が所在する笛吹市は、古墳時代末から平安時代にかけて甲斐国を中心地であり、数多くの遺跡が存在する。本遺跡は、甲斐國分僧寺・國分尼寺から北西に約 4 km、甲斐國府が所在したと考えられている御坂町国衙からは北に約 3 km の位置にある。遺跡周辺は、古墳時代末～奈良時代に政治的な拠点であったと考えられ、調査地点から約 400m 東には甲斐國總社の甲斐奈神社が、約 900m 東には寺本庵寺や國府遺跡が存在する。寺本庵寺は寺域が約 130m 四方で、法起寺式の伽藍配置を持つ。寺の性格については諸説あるが、現在では氏寺・官衙付属寺院とする説が有力で、春日居古墳群を築造した豪族により 7世紀末に創建されたと考えられている。國府遺跡は初期の國府または山梨郡衙と推定されている遺跡で、検出された礎石建物跡は出土した炭化米から正倉院跡と考えられている。このほか、國府関連遺跡として本遺跡の東側に大中寺遺跡、北側に熊野南遺跡、北東に神東町遺跡が存在する。また、春日居町鎮目から國府あたりにかけては条里制地割が認められている。

1988 年に春日居町教育委員会により実施された隣接地の調査では、古墳時代後期の堅穴住居跡 3軒、平安時代の堅穴住居跡 2軒が検出された。平安時代の遺物として、綠釉陶器や鐵鎌、鐵製紡錘車などが出土しており注目される。また、古墳時代の住居跡からは鉄鋤とされる鐵製品が出土していることから、近隣に何らかの製鐵関連遺構が存在する可能性が高いと考えられる。

## 第3章 調査方法

### 第1節 発掘作業

調査区には、世界測地系第IX系、 $X = -37,475 \cdot Y = 13,205$  を基点として 5 m 方眼を設定した。表土除去は重機を用いた。確認調査の結果を参考に、0.3 m<sup>3</sup> パックホウで遺構確認面まで掘削し、その後、人力による遺構確認作業及び精査を行った。検出した遺構の番号は、遺構の種類毎に略記号で区分し、検出した順に番号を付した。記号は、独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所に準拠し、堅穴住居跡は S I、土坑は S K と表記した。平面形態を確認した遺構は、土層観察畦を設定し、遺構内に伴う遺物に留意しながら土層の堆積状況を観察しつつ精査を行った。また、遺構内から出土した遺物は出土順に番号を付した。ただし、覆土中の小破片については各遺構一括出土遺物として扱った。

遺構図面の作成は土層断面図を除いてトータルステーション(Nikon-Trimble FALDY EN3)を用いて行った。成果は測量編集ソフトウェア(AutoCAD2005・SOARS+)で DXF 形式ファイルに変換して出力した。

写真撮影には、中判カメラ(MAMIYA RB-67 レンズ:65mm, 127mm)をモノクローム用に、35 mm判カメラ



1. 稲掛塚古墳 11. 大藏經寺山遺跡 21. へび塚古墳 31. 鳥居遺跡 41. 大藏經寺遺跡 51. 大瀬遺跡  
 2. 七つ石1号墳 12. (大藏經寺東古墳東) 22. (無名地) 32. 鶴谷之木遺跡 42. 松本塚・結濱跡 52. 八田組集内遺跡  
 3. 七つ石2号墳 13. 道祖神塚古墳 23. (無名地) 33. 小石田遺跡 43. 大西遺跡 53. 熊野南遺跡  
 4. 七つ石3号墳 14. さんごうじ古墳 24. 脊庵山古墳 34. 喜作遺跡 44. 三門遺跡 54. 町田遺跡  
 5. 七つ石4号墳 15. (大藏經寺南古墳群) 25. 寺の前1号墳 35. 北田遺跡 45. 中正遺跡 55. 加茂東遺跡  
 6. 七つ石5号墳 16. はたおり塚古墳 26. 幸林2号墳 36. 亀田遺跡 46. 占屋敷遺跡 56. 神糸町遺跡  
 7. (大藏經寺東古墳西) 17. (無名地) 27. 死人2号墳 37. 久保田遺跡 47. 保雲寺植物跡 57. 寺本庵寺  
 8. (大藏經寺東古墳西) 18. 鶴塚古墳 28. 東祖遺跡 38. 北村遺跡 48. 大曾遺跡 58. 大中寺遺跡  
 9. (大藏經寺東古墳東) 19. (黒条塚) 29. 横椎・塙井精石塚古墳 39. 川田跡 49. 後田遺跡 59. 旗尾西遺跡  
 10. (大藏經寺東古墳東) 20. 寺の前2号墳 30. 清水遺跡 40. 桜井遺跡 60. 伊勢の宮遺跡 60. 春日神社延長跡

図1 遺跡の位置と周辺遺跡(S=1/25,000)

※( )は未命名の古墳。



図2 本調査範囲と周辺地形

(Nikon F80 レンズ:24mm~85mm) カラーリバーサル、モノクローム用に使用した。補助としてデジタルカメラ(Canon IXY DIGITAL 5.0 MEGAPIXELS)も使用した。使用フィルムはFUJIFILM NEOPAN 100 ACROS, FUJIFILM PROVIA 100 Fである。撮影したモノクロームフィルムは、密着プリントと併せてネガアルバムに保存し、駒ごとに説明を付した。カラーリバーサルフィルムは、遺構ごとにシートに分けてスライドファイルに収納した。また、それぞれの写真台帳を作成した。

## 第2節 整理作業

出土遺物への注記作業は市教委の指示により、遺跡名と調査年度、遺構略記号、検出遺構番号を記した。また、遺物台帳に出土した場所及び標高、遺物取り上げ年月日を記載した。遺物への注記は下例のよう行った。

(注記例) 桶田遺跡 平成18年度 1号堅穴住居跡出土1番遺物 → ケキタ H.18 SI01 No.1

注記が完了した遺物は、本来の形状を復元できる資料を中心に接合・復元作業を実施した。欠損部の充填には有限会社新成川総合社製品のバイサムを用いた。また、欠損部の多い資料については無理な推定復元を行わず、補強をするに止めた。

実測は全て手測りで行い、原図をスキャナーで取り込み、コンピュータによるデジタルトレースを行った。

遺物の写真撮影は中判カメラ(MAMIYA RB-67 レンズ:127mm モノクローム)を用いた。撮影したフィルムは、密着プリントと併せてネガアルバムに保存し、写真台帳を作成した。

## 第3節 報告書作成作業

報告書の作成に関わる執筆と全体編集は、埋文協 西関東整理事務所(山梨支部:昭和測量株式会社秩東支店)にて行った。第1章第1節の執筆は岩崎 祥が行い、その他の本文の執筆、挿図・表・図版の作成、遺物の写真撮影及び報告書全体の編集は白崎智隆が行った。

なお執筆にあたって、大島正之(甲斐市教育委員会)・小淵忠秋(笛吹市教育委員会)から御教示を賜った(五十音順・敬称略)。記して謝意を表したい。

遺構実測図は、埋文協 山梨支部 昭和測量株式会社が作成したDXF形式ファイルを編集し、既存の地形図及び遺物実測図は、スキャナーで読み込んだEPS形式ファイルを編集して原稿とした。編集には、Photoshop Ver.6.0 (ADOBE), Illustrator Ver.10.0 (ADOBE)を使用した。

既存の地形図は、縮尺1/25,000及び1/2,500図を使用し、図1・2は以下を用いて作成した。

図1 春日居町発行 1/2,500都市計画基本図「W-LE 23-3」(平成8年測量)

図2 国土地理院発行 1/25,000地形図「石和」(NI-54-31-7-1) (平成8年7月1日発行)

各種測量図・実測図の縮尺は以下の通りとした。また、挿図中の尺度にも縮尺を付記した。

遺構: 遺構配置図…1/100, 堅穴住居跡…1/80, 土坑…1/40

遺物: 土師器…1/4, 須恵器…1/4(断面黒塗り)

図1, 図2及び遺物実測図には、以下の箇所に網かけを用いた。

図1…遺跡範囲

図2…発掘調査範囲

遺物実測図…上部器の赤彩部分

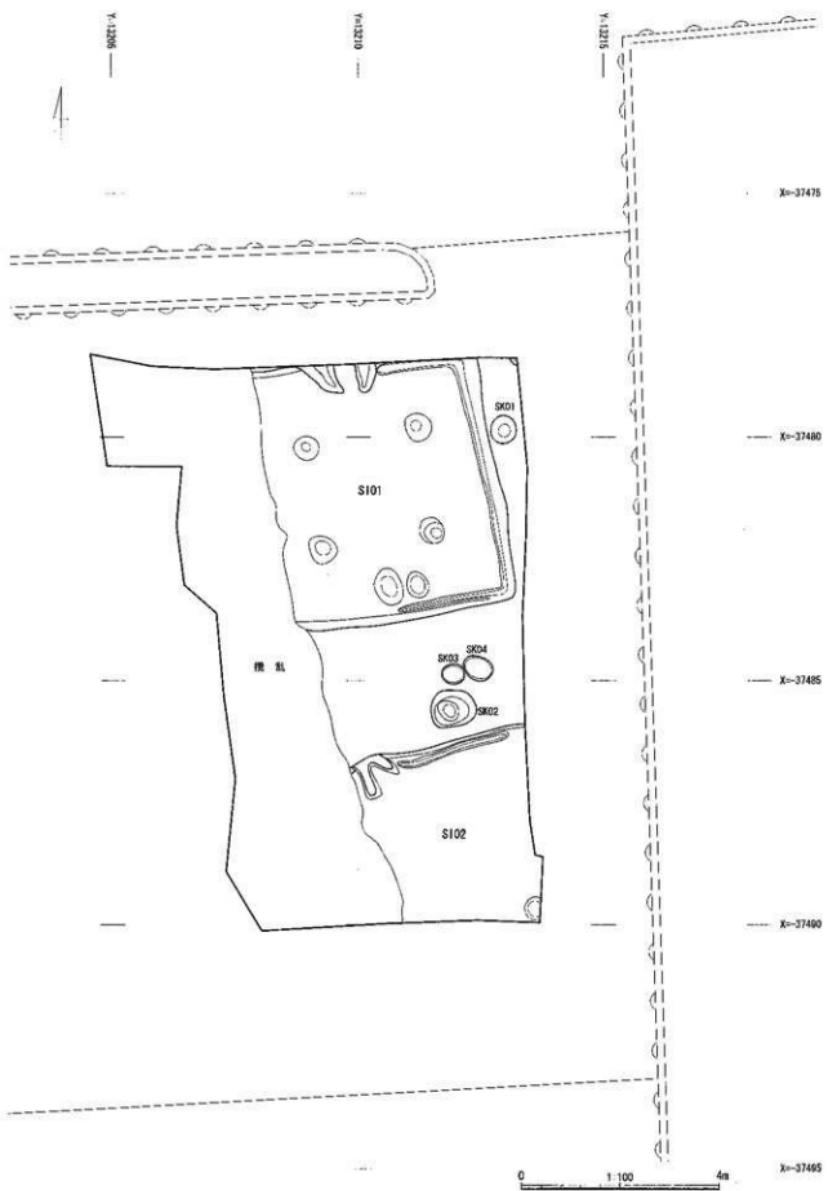


図3 造構配置図

## 第4章 遺構と遺物

### 第1節 概要

調査により検出した遺構は、堅穴住居跡2軒、土坑4基である。調査区西側は、暗渠により遺構が消滅していた。また、発掘調査を行った範囲が狭いため、堅穴住居跡などはいずれも部分的な検出にとどまり、遺構全体の把握には至っていない。

### 第2節 堅穴住居跡

#### 1号堅穴住居跡(SI01) (図4・5、図版1~3)

位置：調査区北側 主軸方位：N10W 形態：方形 規模：東西5.0m(推定)×南北5.4m 深さ46cm 柱穴：6口を検出。P1~P4が主柱穴、P5は出入り口に伴うピットと考えられる。床面：砂質土により構築。竪の前面で硬化面を検出。周溝：住居跡東半部で検出。本来は全周していたと考えられる。燃焼施設：北壁中央で竪を検出。燃焼部で支脚となる石が出土。重複関係：なし 出土遺物：土師器壺5点、高壺2点、須恵器壺1点、須恵器台付壺1点、須恵器蓋3点、土師器甕6点、手捏ね1点を図示した。このほか図示はできなかったが、体部外面に稜を有する土師器壺や黒色処理された土師器壺、赤彩された土師器高壺の破片も出土した。須恵器蓋8・9は、竪左袖の中から合子状に出土した。土師器甕は14~17などの長胴甕が主体である。しかし、17のように底部が丸底となる例は周辺地域では認められず、住居跡に伴うかどうかも含めて注意が必要である。また13の小型甕は、口縁部から胸部上半部が竪内から逆位で出土している。

#### 2号堅穴住居跡(SI02) (図4・6、図版2・4)

位置：調査区南側 主軸方位：N14W 形態：方形か 規模：北壁のみの検出のため不明。深さ31cm 柱穴：1口を検出。主柱穴は不明。床面：砂質土により構築。硬化面は検出できなかった。周溝：北壁で検出 燃焼施設：北西隅で竪を検出 重複関係：なし 出土遺物：土師器壺2点、土師器皿3点、土師器甕4点、柱状高台壺3点、鉄製鏃1点を図示した。土師器壺(1)や土師器皿(3~5)の口唇部は玉縁状に肥厚する。このほか図示しなかったが、底部回転糸切り後未調整の須恵器壺なども出土した。また、口縁部が肥厚する土師器甕破片の出土が目立った。10~12の柱状高台壺は混入したものと考えられる。

### 第3節 土坑

#### 1号土坑(SK01) (図7・図版2)

位置：調査区東北部 主軸方位：N0 形態：平面は円形。底面は丸底 規模：57×53cm 深さ16cm 出土遺物：なし

#### 2号土坑(SK02) (図7・図版2)

位置：調査区中央部 主軸方位：N74E 形態：平面は橢円形 規模：92×76cm 深さ26cm 特記事項：試掘調査時に土坑の直上で焼土を検出 出土遺物：なし

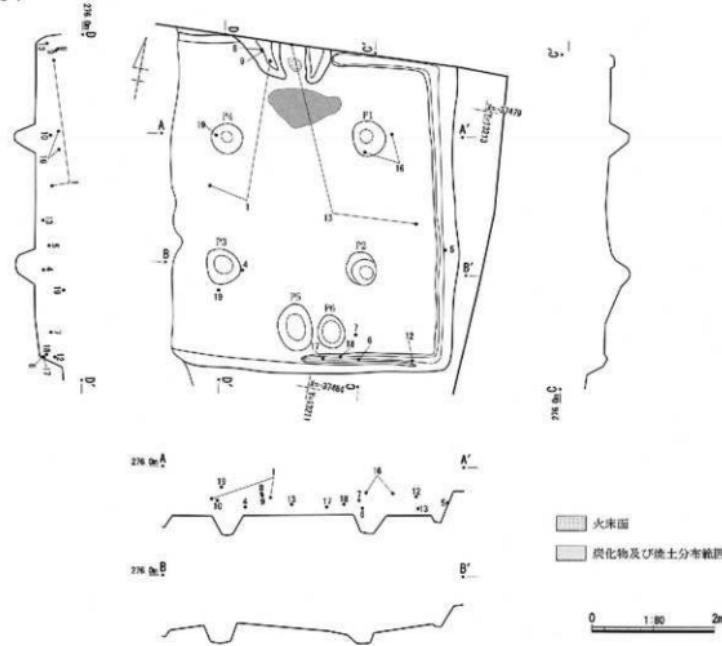
#### 3号土坑(SK03) (図7・図版2)

位置：調査区中央部 主軸方位：N79E 形態：平面は円形。底面は平坦 規模：48×42cm 深さ9cm 出土遺物：ロクロ整形の土師器壺及びハケ調整の土師器甕の小片が数点出土。図示はしなかった。

#### 4号土坑(SK04) (図7・図版2)

位置：調査区中央部 主軸方位：N60W 形態：平面は円形。底面は平坦 規模：62×50cm 深さ8cm 出土遺物：ロクロ整形の土師器壺及びハケ調整の土師器甕の小片が数点出土。図示はしなかった。

S101



S102

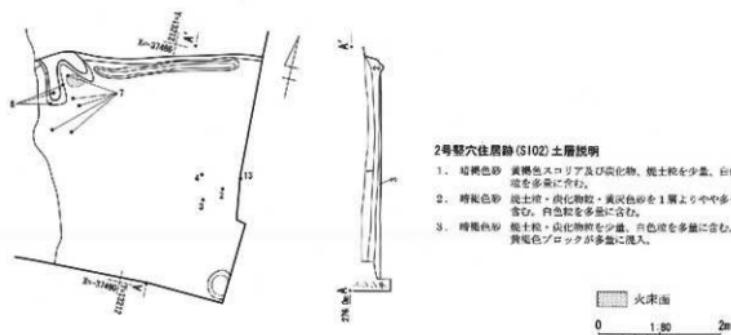
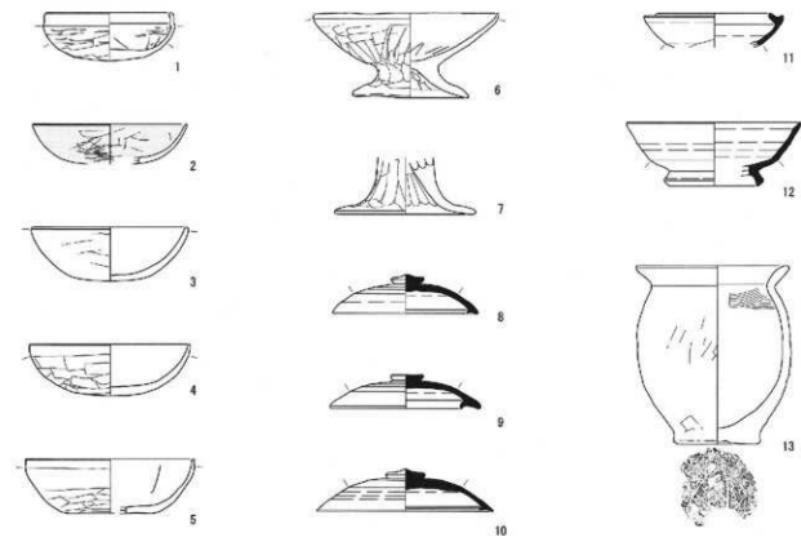


図4 1号竪穴住居跡(S101)及び2号竪穴住居跡(S102)



0 1:4 10cm

図5 1号竪穴住居跡(SI01)出土遺物

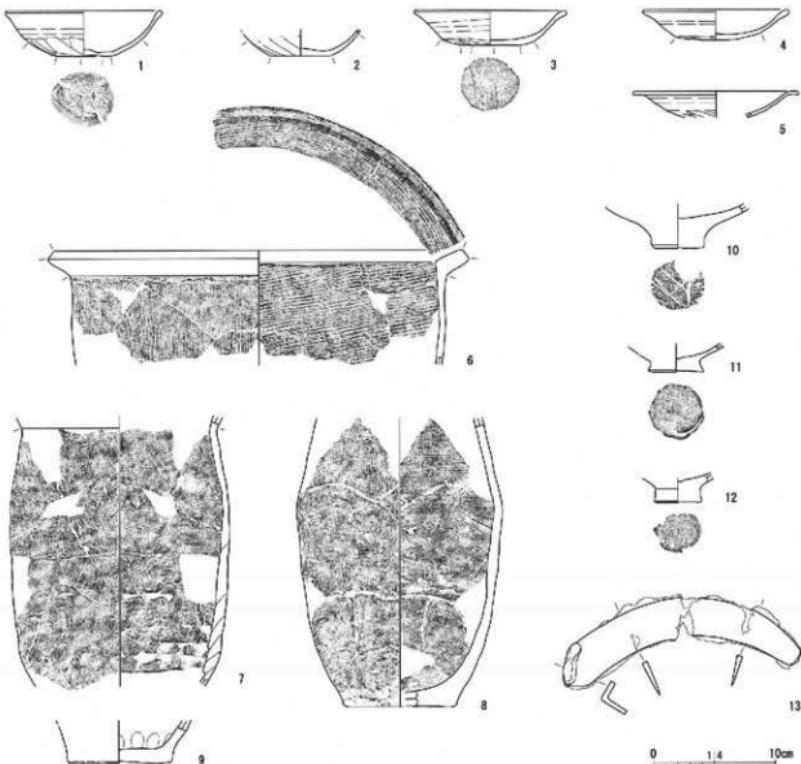


図6 2号竪穴住居跡(S102)出土遺物

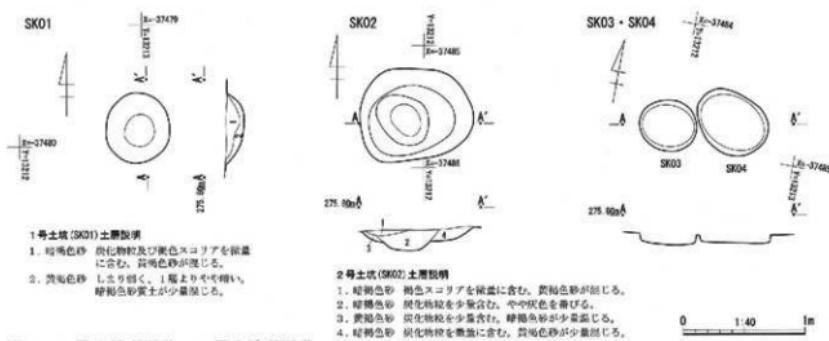


図7 1号土坑(SK01)～4号土坑(SK04)

## 第5章　まとめ

調査の結果、堅穴住居跡2軒、土坑4基を検出した。1988年に行われた隣接地の調査では5軒の堅穴住居跡を検出していることから、調査面積から考えると調査区周辺は比較的遺構密度の高い地点と考えられる。

今回の調査で検出した遺構の時期は次のとおりである。時期決定は山梨県における土器編年を参考に行つた。

- ・1号堅穴住居跡：古墳時代末（7世紀後葉）
- ・2号堅穴住居跡：平安時代（10世紀中葉）
- ・1号～4号土坑：平安時代

1号堅穴住居跡は西壁が暗渠により壊されていたが、その大半を調査することができた。出土遺物も豊富である。時期決定の根拠としたのは、須恵器壺(11)や須恵器蓋(8～10)である。口縁部内面にかえりを持つ特徴などから、7世紀後葉と考えた。非クロロ整形の土師器壺やハケ調整された土師器壺もほぼこの時期のものと考えられる。ただし、土師器壺(1)は7世紀中葉、須恵器高台付壺(12)は8世紀に比定されると考えられるため、他の出土遺物とはやや年代に差があり、混入したものである可能性がある。

2号堅穴住居跡は、西壁が暗渠により壊され、南壁と東壁が調査区外であった。住居跡全体を調査できなかったため他の遺構との重複は不明だが、柱状高台皿(10～12)が覆土中より出土していることから、11世紀以降の遺構が本堅穴住居跡に近接して存在すると推測される。

土師器壺(1～2)や土師器皿(3～5)には、10世紀末葉には消滅する体部下端及び底部調整が認められるため、10世紀前葉～中葉に比定されると思われる。また、土師器壺(6)の口縁部が肥厚する特徴から、これらの遺物の時期も土師器壺・皿の年代とほぼ整合する。このことから、本堅穴住居跡の時期を10世紀中葉と考えた。

土坑は、出土遺物が乏しく時期決定が困難である。3号土坑からはクロロ整形の土師器壺の小片が出土していることから、平安時代の所産と考えられる。他の土坑からは遺物の出土は皆無であり、時期決定は困難であるが、覆土が似ることなどから同じく平安時代と推測した。

以上、今回の調査における成果を概観した。隣接地にみられたような特殊な遺物は出土しなかったが、住居跡の営まれた時期はほぼ同一であり、1988年の調査を補完する結果を得ることができた。しかし、遺跡範囲に比して調査が行われた面積は狭小であり、国府関連遺跡とされている飼田遺跡の全体像を把握するには、さらなる調査事例の蓄積が必要であり、今後の調査が期待される。

### 参考文献

- 内田裕一・十菱敬武 1989 「飼田遺跡」春日局町教育委員会  
内田裕一 1998 「国府遺跡」『山梨県史 資料編1』山梨県  
内田裕一 1998 「寺本庵寺」『山梨県史 資料編1』山梨県  
坂本美夫 1999 「4 古墳時代の編年」『山梨県史 資料編2』山梨県  
山下孝司・瀬川正明 1999 「5 奈良・平安時代の編年」『山梨県史 資料編2』山梨県

表1 出土遺物観察表

## 1号墳穴住居跡(ST01)

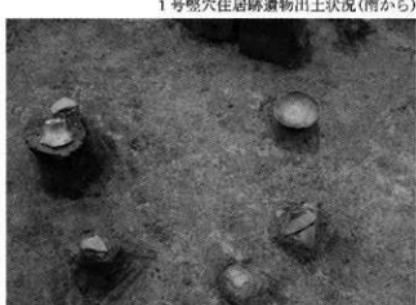
番号	器種	理法	量(cm)	調査の特徴	地上・色調・焼成	備考
1	土師器 壺	口径 高 底径	102 40 —	口縁部は横ナギ。体部外表面はナガ灰陶なミガキ。体部 外表面下平はヘラケズリ。内面はヘラナガ灰陶なミガキ。外 面黒色底銀。	赤色を中量。砂粒を少々。小角窓を微量 含む。外面部黒褐色。内面褐色。焼成は良 好。	口縁部1/4焼存 No. 21, 65
2	土師器 片	口径 高 底径	124 33 —	口縁部は横ナギ。体部外表面はヘラケズリ後焼なミガキ。内 面はナガ後焼なミガキ。内外面とも赤色。	相手塗。赤色を少々。窓口を微量含む。 内外面とも土褐色。焼成は良好。	口縁部1/2焼存 —括
3	土師器 壺	口径 高 底径	124 45 —	口縁部は横ナギ。体部外表面は磨歴著しく済焼不明瞭だが、 ヘラケズリか。内面はナギ。	砂粒を中量。赤色に、黄褐色を少々含む。内 外表面とも土褐色。焼成は良好。	1/4焼存 —括
4	土師器 壺	口径 高 底径	130 43 —	外面は口縁部を模ナギ、体部～底部を手持ちヘラケズリ。 内面はナギ。	砂粒を中量。砂粒を少量。黑色粒を微量 含む。燒造された跡なし。内外面とも褐 色。焼成は良好。	口縁部の一部を欠損 No. 41
5	土師器 壺	口径 高 底径	136 45 68	外面は口縁部を模ナギ、体部上半をナギ、体部下部～底部 をヘラケズリ。内面は体部をヘラナギ、底部をナギ。	赤褐色。褐色砂粒を少量含む。燒造された跡 なし。内外面とも橙色。焼成は良好。	1/3焼存 No. 50, 一柄
6	土師器 高杯	口径 高 底径	150 70 94	口縁部横ナギ。体部～脚部外表面はヘラケズリ。底部内面は ヘラナギ後焼ナギ。脚部模ナギ。	赤色を中量。砂粒・露柱を少量含む。内 外表面とも暗褐色。焼成は良好。	内形 No. 55
7	土師器 高杯	口径 高 底径	— (47) 108	脚部外表面は横ナギヘラケズリ。内面は横位ヘラケズリ。脚部 模ナギ。	砂粒・赤色粒を少量。白色粒を微量含む。 内外面ともにぶい赤色。焼成は良好。	脚部1/2焼存 No. 56
8	須恵器 壺	口径 高 底径	119 28 90	ヨクロ整形。天井部開窓へラケズリ。外面に自然釉付着。 つまみは須恵器乳頭になる。	黒色を多量。瓦石の小角窓を少量含む。 内外面とも灰白色。焼成は良好で焼質。	完形(西周型) SD. 63
9	須恵器 壺	口径 高 底径	117 35 100	ヨクロ整形。天井部開窓へラケズリ。外面に自然釉付着。 つまみは須恵器乳頭になる。	黒色粒を少量含む。内外面とも灰白色。燒 成は良好で焼質。	完形(西周型) SD. 64
10	須恵器 壺	口径 高 底径	(142) 35 (121)	ヨクロ整形。天井部開窓へラケズリ。外面に自然釉が広が る。内面に付着。	黒色粒を少量。瓦石・瓦黃の小角窓を微量 含む。内外面とも灰白色。焼成は良好。	3/5焼存(南西周型) SD. 19, 一括
11	須恵器 片	口径 高 底径	(110) 38 —	ヨクロ整形。体部外下部は手持ちヘラケズリ。	黒色粒を微量含む。内外面とも灰白色。燒 成は良好で焼質。	3/5焼存(南西周型) —括
12	須恵器 高台付片	口径 高 底径	(140) 53 (70)	ヨクロ整形。体部外下端は凹輪へラケズリ。	黒色粒を少量含む。内外面とも灰白色。燒 成は良好で焼質。	2/5焼存(南西周型) No. 69, —括
13	土師器 壺	口径 高 底径	147 63 64	口縁部横ナギ。外表面は影画の剥離が激しく、調整不判断。 脚部はヘラナギ。脚部下端はヘラケズリか。底部外表面は木 炭痕が残る。内面は横位ヘラ窓張後ナギ。	小角窓を多量。窓口・赤色粒を少量含む。 内外面とも明褐色。焼成は良好。	脚部1部欠損 No. 48, 66, —括
14	土師器 壺	口径 高 底径	(200) (102) —	口縁部はハケ剥離後横ナギ。脚部外表面は横位ヘラ窓張。内 面は横位ヘラ窓張後ナギ。	砂粒を中量。赤色粒を少量含む。外面部黒 褐色。内面褐褐色。外表面の一部にスス付着。 焼成は良好。	口縁部1/5焼存 —括
15	土師器 壺	口径 高 底径	(200) (101) —	口縁部は横ナギ。脚部外表面は横位ヘラ窓張。内面は横位ヘ ラ窓張。内外表面とも表面が荒れているため調整不判断。	瓦石・多量。砂粒を中量。赤色粒及び小角 窓を少量含む。あざけ跡なし。外表面は深 色。内面にはぶい褐色。焼成は良好。	口縁部1/6焼存 —括
16	土師器 壺	口径 高 底径	(210) (124) —	口縁部は横ナギ。脚部外表面は横位ヘラ窓張。内面は横位ヘ ラ窓張。器皿が荒れているため調整不判断。	白・砂粒を多量。瓦石・石英等の小角窓を 中量。赤色粒を少量含む。内外面ともにぶ い褐色。焼成は良好。	口縁部1/4焼存 No. 14, 16, —括
17	土師器 壺	口径 高 底径	(264) — —	脚部外表面は横位へケ調整。底部は丸底で外表面はハケ剥離さ れる。内面は斜位または横位へケ調整後ナギ。一部に粗頭 底孔。	白・砂粒を中量。赤色粒及び小角 窓を少量含む。外表面も褐色。外表面の一部は黒褐 色。焼成は良好。	脚部1/2焼存 So. 53
18	土師器 壺	口径 高 底径	(94) 66	脚部外表面はナギ。脚部下端はヘラナギ。器皿が荒れている ため調整不判断。内面はヘラナギ後ナギ。底部に木炭痕。	白・砂粒を多量。砂粒を中量。赤色粒及び 小角窓を少量含む。外表面褐色。内面褐褐色。 焼成は良好。	脚部下半部 So. 54
19	土師器 壺	口径 高 底径	(63) 75	内外面ともナギ。底部に木炭痕。	砂粒を中量。赤色粒を少量含む。外表面にぶ い黄色。内面にぶい褐色。焼成は良好。	遮部1/3焼存 No. 38
20	土師器 手捏ね	口径 高 底径	65 50	外表面は横ナギ後体部下端手持ちへラケズリ。底部は磨滅し て調査不明。	砂粒。赤色粒。白色粒。瓦丹を中量含む。 持った跡なし。内外面とも暗褐色。焼成は 良好。	1/4焼存 2Tr覆土, —括

※法量標の( )は復元値、( )は遺存値を示す。

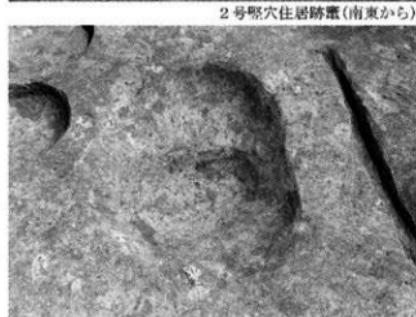
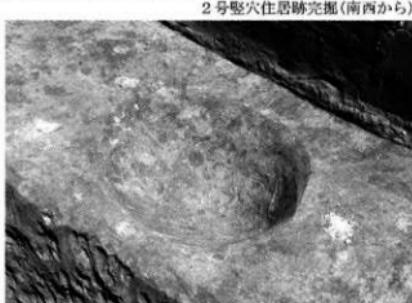
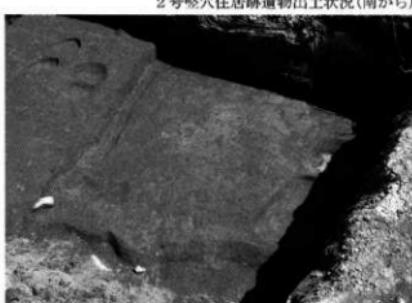
## 2号穴住居跡 (S102)

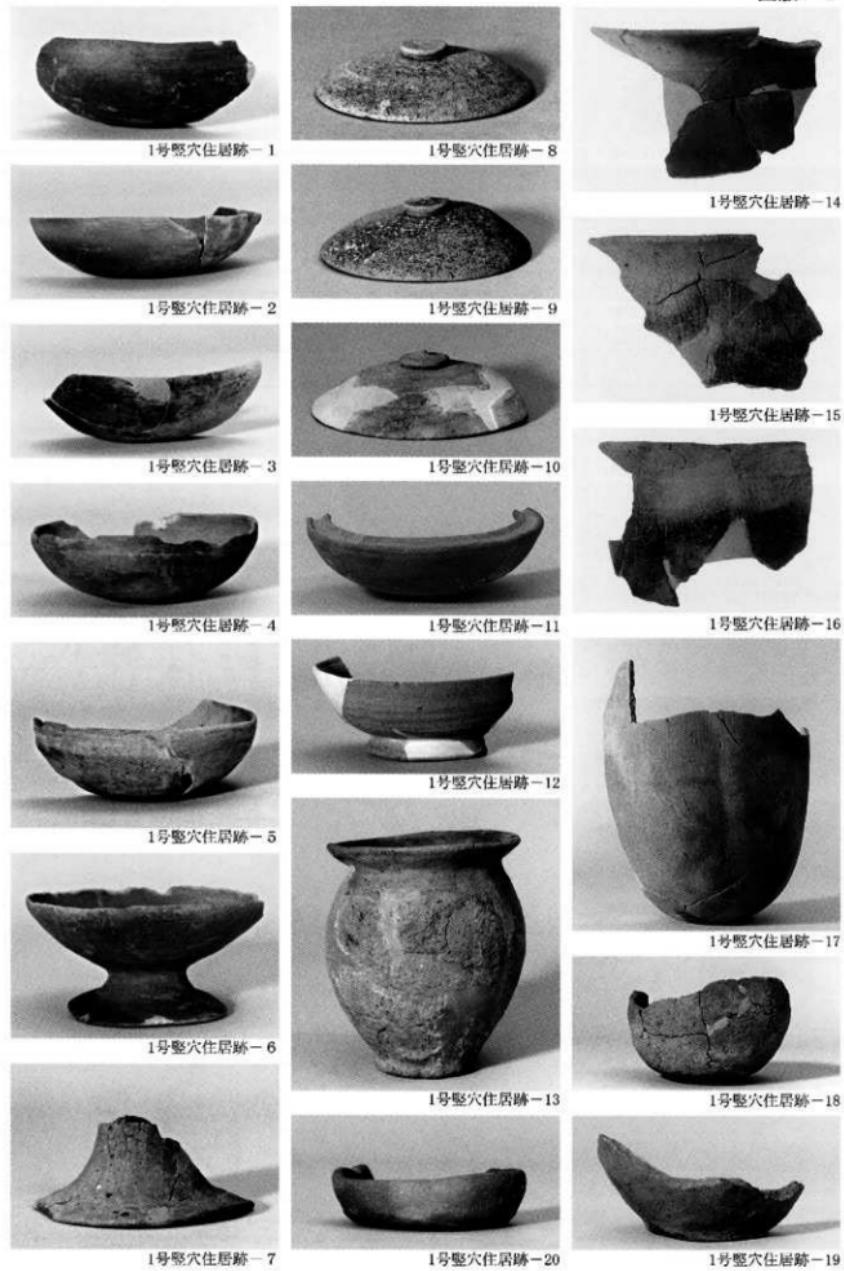
番号	器種	残量(mm)	調査の特徴		地上・色調・造成	備考
			外観	内部		
1	土瓶	口径 身高 底径	125 29 43	ヨクヨ型。底部は凹板を切り後一部分を手拂らへラケズリ。底部下端は側曳の手拂らへラケズリ。口部部は卡絞り。	赤色粒を少量。白色粒及び砂粒を少含む。外面褐色。内面は良好。	山越部1/4残存 4T+優十 恒
2	壺	口径 身高 底径	- (30) 50	外観は底部下端を斜位の手拂らへラケズリ。底部凹板を切り後全面手拂らへラケズリ。内面はトド。	赤色粒を中量。黄粉及び砂粒を少含む。外面褐色。内面に少い褐色。焼成は良好。	山越部欠損 No. 33
3	土瓶	口径 身高 底径	125 (29) 43	ヨクヨ型形。底部は凹板を切り後全面手拂らへラケズリ。底部一端は手拂らへラケズリ。口部部は卡絞り。	赤色粒を中量。砂粒を少量。白色粒を微量含む。外外面とも褐色。焼成は良好。	口越部2/5欠損 No. 34
4	豆	口径 身高 底径	121 25 41	ヨクヨ型形。底部は企念手拂らへラケズリ。口部部は木綿灰。	赤色粒を多量。網状紋を少含む。白色の完形新土が開次に混ざる。外外面とも褐色。焼成は良好。	No. 46
5	土瓶	口径 身高 底径	(123) (22)	ヨクヨ型形。内面はナゲ。口部部は手拂状。	赤色粒を多量。大粒の赤色粒を微量含む。外外面とも明め褐色。焼成は良好。	口越部2/5残存 4T覆上一灰
6	土瓶	口径 身高 底径	(334) (94) 50	外観は口部部に横にハケ調整。口部部がナゲ。腹部が輪位ハケ調整。底部は口部部及び側曳部が横位ハケ調整。口部部は凹板。	細粒及び黒粉を多量。灰石、石炭の小角巣を少含む。赤色粒は少含む。外表面褐色。内面暗赤褐色。焼成は良好。	口越部1/4残存 一指
7	土瓶	口径 身高 底径	(112) (212) -	底部外周は手拂ハケ調整。底部内面は横位または斜位ハケ調整後ナゲ。底部下半で横位傾斜顕。	砂粒及び黒粉を中量。赤色粒を少含む。外表面は褐色。内面は褐色。焼成は良好。	頭部～脚部1/4残存 No. 4, 7, 10～12, 一指
8	土瓶	口径 身高 底径	(237) (88)	底部外周は手拂ハケ調整。底部下端は摩擦により調整不良。底部は器底部が剥離し、不均整だが本焼成か。内面は横位または斜位ハケ調整。内底面はナゲ。	砂粒を多量。赤色粒及び黒粉を少含む。小角巣を少含む。内外面とも明め褐色。焼成は良好。	脚部～頭部1/2残存 No. 2, 3, 8, 一指
9	土瓶	口径 身高 底径	- (31) 83	外壁はハラナゲか。芯部は層状で質感不明。内面はナゲ。一部に折突底。	粗い砂粒を多量。窓舟を中量。赤色粒及び小角巣を少含む。砂っぽい粒上。外表面褐色。内面褐色。焼成は良好。	脚部破片 一指
10	土瓶	口径 身高 底径	- (36) 49	外壁はナゲ。内面はハラナゲがナゲ。底部は切り離し不易。	赤色粒を中量。細砂粒を少量。窓舟を微量に含む。内外面とも褐色。焼成は良好。	正面部欠損 恒
11	土瓶	口径 身高 高さ直 底径	- (23) - 45	ヨクヨ型形。底部に凹板を切り後尖端調整。底部は溶成し、調整不良部。高さ直部は縮開状である。	新砂粒を少量。赤色粒を少含む。やや砂っぽい粒上。内外面とも褐色。焼成は良好。	底部破片 一指
12	土瓶	口径 身高 高さ直 底径	- (24) 39	ヨクヨ型形。底部は凹板を切り後木綿灰。底部は溶成し、調整不良部。高さ直部は縮開状である。	細砂粒を中量。赤色粒を少含む。やや砂っぽい粒上。内外面とも褐色。焼成は良好。	正面部欠損 恒
13	鉢	長さ 幅 高さ直 底径	189mm 36mm 8mm 49	長さ189mm、幅36mm、厚さ8mm、重さ184.1g。	砂粒を少量。底部破片	30.47

※汎用機の( )は復元値、( )は遺存値を示す。

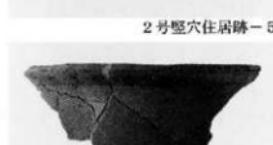
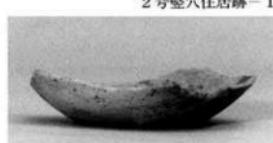


図版 2





図版 4



## 報告書抄録

ふりがな	くぬぎだいせき
書名	柄山遺跡
副書名	春日居びゅーほてる増築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	笛吹市文化財調査報告書
シリーズ番号	第8集
編著者名	白崎 智隆・岩崎 祥
編集機関	埋蔵文化財発掘調査支援協同組合（埋文協）
所在地	〒169-0073 東京都新宿区百人町1-20-24 TEL03-3365-2277
発行年月日	2008年4月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
くぬぎだいせき 柄山遺跡	山梨県笛吹市春日居 町横日字小島田17 8-1	—		35° 39' 43"	138° 38' 44"	2007.03.28 ～ 2007.04.06	100m <sup>2</sup>	宿泊施設増築
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
柄山遺跡	集落	古墳時代終末期	堅穴住居跡	1軒	土師器、須恵器			
	集落	平安時代	堅穴住居跡 土坑	1軒 4基	土師器、須恵器			

判型 : A4判  
頁数 : 16頁  
本文組版 : 14級(10p)明朝を基本  
図版製版 : 400dpi, 200線2色  
図版印刷色 : 墨+CF8629  
印刷方式 : オフセット印刷  
用紙 : 表紙 王子特殊紙テンカラーエンボス皮紋 スカイ4/6判 連量175kg  
本文 日本板紙淡クリーム琥珀A判 連量57.5kg  
図版 王子製紙サテン金藤N菊判 連量76.5kg

©2008 Maibunkyou

---

笛吹市埋蔵文化財調査報告書 第8集

## 桙田遺跡

春日居びゆーはてる縄築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成20年3月31日 発行

---

編集 埋蔵文化財発掘調査支援協同組合(埋文協)  
〒169-0073 東京都新宿区百人町1-20-24 TEL03-3365-2277

発行 笛吹市教育委員会  
〒406-0031 笛吹市石和町市部809-1 TEL055-261-3342

印刷・製作 株式会社 内田印刷所  
〒400-0032 山梨県甲府市中央2-10-18 TEL055-233-0188

---

The Report of  
Archaeological Research of KUNUGIDA Site

An Archaeological Survey prior to the Extension of Kasugai View Hotel Building

2008

Kasugai View Hotel Building

Fuefuki City Board of Education

Archaeological Research & Planning Co-op. (MAIBUNKYO)